



令和5年度 車座集会 意見交換内容

日時	令和5年12月1日(金)14時から
場所	三川内地区コミュニティセンター 講堂
テーマ	三川内地区のまちづくり (公共施設の再編、市街化調整区域の考え方)
出席者	地域参加者14名、市議会議員1名、市長ほか関係者5名 合計20名

佐世保市 市民生活部
コミュニティ・協働推進課

令和5年度三川内地区 意見交換内容(要旨)

テーマ:三川内地区のまちづくり

地域参加者

【四季彩館について】

- 公共施設の再編にあたり、四季彩館を移動販売車にできないか。四季彩館には日用品も売っているが、あまり認知されていないと感じる。移動販売やネット販売、四季彩館を拠点に配達などができたらと思う。
- 現在四季彩館には、肉魚、地元産の野菜が売られており、日常生活は賄えている。もう少し品数を増やして拡大、せめて維持向上。住民同士の交流にも繋がる。まちづくりの基本はスーパーだと考える。
- 四季彩館機能を残していただきたい。地域としても地元産の野菜等を販売できるよう努力していくので是非お願いしたい。

【コミュニティセンターの建替え】

- 会議やサークル活動にも使用できるような多機能の調理室を作って欲しい。
- コミュニティセンターを建て替えるにあたり、防災機能に特化したユニバーサルデザイン化された防災コミュニティセンターを提案したい。佐世保市で第1号となることで、近隣県などからも視察、教育関係機関から見学旅行などで人を呼べるのでは。建替えの際には、延べ床面積が15%ほど小さくなると聞いている。柔軟性・多機能性を持たせた施設を作って欲しい。



令和5年度三川内地区 意見交換内容(要旨)

テーマ:三川内地区のまちづくり

地域参加者

- 三川内支所周辺の公共施設の再編と、学校再編は同時に進めて欲しいと考えている。

【伝統産業会館について】

- 三川内陶磁器工業協同組合としては、伝統産業会館のリニューアルに向けて、来館者の満足度と美術館の充実、後継者の育成の2点を大きく取り上げ、具体的に意見交換をしている。特に重きを置いているのが後継者の育成である。数年前に県外から窯業従事者の方が移って来られ、三川内山では世襲以外の窯元が初めて誕生し窯業従事者を増やす前例となった。現在、窯業従事者を増やすためのしかけづくりについて話を進めているところである。10年後を目指して計画を立てているので、ぜひ施設再編の折にはお願いしたいと思っている。

【サービス面を含めた再編】

- 公共施設の再編にあたり、ソフト面・サービス面にも踏み込んで欲しい。支所・コミセン・うつわ歴史館・伝統産業会館・地区自治協議会5つの組織を統合できないか。市の支援も必要ではあるが、支所の仕事から課題解決まで全て地域に任せるというように、ハード面での施設再編に併せてサービス面も含めた再編も行ってはどうかと考えている。



令和5年度三川内地区 意見交換内容(要旨)

テーマ:三川内地区のまちづくり

市長

- 公共施設再編については、多目的、防災機能、ユニバーサルデザイン等、色々な意見を承った。地域の皆さんの意見が十分に反映された施設をぜひ作りたいと思う。
- 周年事業で訪れたオーストラリアのコフスハーバー市役所は、機能的で色鮮やかで楽しい気分させるような施設であった。課題は多いかと思うが、皆様のアイデアを盛り込んだ斬新な、充実、満足の施設をつくりたいと思うので、ご支援をお願いしたい。



2023.12.1 三川内地区



令和5年度三川内地区 意見交換内容(要旨)

テーマ:三川内地区のまちづくり

観光商工部長

- 地元の方々は四季彩館の存続を希望されていると理解した。四季彩館は佐世保物産振興協会が事業運営されており、売上としては食料品・物販の比重が大きく、地元にとってなくてはならない施設であると認識している。専門的なスーパーではないので移動販売やネット販売までは広げられないが、現在の形で存続するという方向で調整を進めているところである。



財務部長

- 佐世保市は合併等の経緯もあり、他自治体と比べて人口に対し公共施設が多い。人口減少が進む中で、施設を集約しながら機能は維持する公共施設適正配置の考え方にに基づき、今回、4つある施設を3つに集約、機能は維持していけるよう、知恵を絞ることが重要であると感じている。双方で協議をしながら進めていきたい。

市民生活部長

- 地元産の野菜や特産物販売については、例えばコミセンを使用して自治協主催で地域の方に出店していただくなど、やり方の工夫は必要だが今でも可能。職員にご相談いただければと思う。
- 施設再編にあたり、来年度以降に部屋のレイアウトなど具体的な話をしていくことになる。こちらから土台を示して、地域の皆様からのアイデアをいただきながら進めたい。
- 以前、全地区自治協議会へコミュニティセンターの指定管理について広めようとしたが時期尚早であった。三川内地区からはモデル地区になっても良いという積極的なお声をいただいている。一連の施設の指定管理という件は、スケールメリットの観点で良いご意見をいただいたと思う。

令和5年度三川内地区 意見交換内容(要旨)

テーマ:三川内地区のまちづくり

地域参加者

【高齢者の支援について】

- 高齢者の方が一番困っておられるのは、日々の買い物である。三川内地区では、車で早岐、波佐見、有田へ買い物に行く方が多く、独居の高齢者が買い物できる場所がない。
- 三川内には独居の高齢者世帯が120以上ある。買い物に出て住民同土顔を合わせることも大事だと思う。三川内の中心部にスーパーマーケット機能は絶対に必要だと考える。
- 高齢者へのニーズ調査を行うと、買い物支援、移動支援についての要望が多い。三川内支所周辺を中心に生活ができるようになれば、他の地域へ行かずによくなり移動支援を行う際の経費削減にも繋がると思う。現在、移動手段がなく病院や買い物など、まとめて用事を済まされる方が多い。高齢者の方がもっと自由に出掛けられれば、もっと住みやすい町になるのかなと思う。

【地域の移動手段の確保】

- 市長の99の政策の中にもコミュニティバス等の充実強化が掲げられている。ライドシェアなど色々な仕組みを活用して地域の利便性を作っていくことが課題だと思う。
- バスの本数が少なく、市中心部へ行くバスは1日に数本しかない状況である。市内を循環するコミュニティバスを上下線で作っていただければ、市中心部から三川内にも来やすくなり、三川内だけでなく佐世保全体が潤うと思う。
- 公共交通機関を利用して通学する場合、バスの本数が少なく、電車も乗り換えが必要など不便が生じている。朝の補習授業に間に合わない、部活動に参加したら帰宅時にはバスがないということもある。特に保護者が車で送迎できない家庭は高校進学の際に選択肢が少なくなる。



令和5年度三川内地区 意見交換内容(要旨)

テーマ:三川内地区のまちづくり

地域参加者

【住みやすい、魅力あるまちづくり】

- 地域を活気づけるためにスーパーマーケット規模の道の駅設置が必要と思う。コミセンやうつわ歴史館の宣伝をしつつ、食料品や名産品・地元の野菜や果物を販売し、宅配可能にすれば高齢者や身体の不自由な方、共働き世帯の助けになる。
- 三川内地区は高速道路が近くにあり交通量は多いが通過地点となってしまう。三川内の知名度、認知度アップのための看板設置も必要と思う。
- 東そのぎICでは、高速から下りて道の駅に立ち寄り、2時間以内に再流入した場合、料金が継続で計算される仕組みがあるが、そういった他地域の特長も取り入れながら、三川内地区の活性化のためにもっと三川内ICを活用する必要があると思う。早岐、広田、宮など周辺地域を含めた中で、三川内の位置付けを明確にすることで広域でのまちづくりに繋がるのではないかと思う。
- 人口減少が進む中で、他地域から来てもらえるような施設が必要だと思う。特に女性や子どもが集まる公園など憩いの場を作ってはどうか。調整区域など課題はあると思うが、検討して欲しい。
- 県内でも、長崎市は特に勢いがあるように感じる。諫早市・大村市も市全体に活気があるように思う。佐世保市も、もっと元気で魅力ある市だとアピールしないと若い世代の転出に繋がってしまうのでは。財政的な問題もあると思うが、県北地域を盛り上げる何らかの方策が必要だと思う。
- 三川内といえば焼き物があるが、焼き物を活かして何かできないか。少子化の中で三川内に来てもらう方法を地域住民全体で真剣に考える必要があると思う。



令和5年度三川内地区 意見交換内容(要旨)

テーマ:三川内地区のまちづくり

地域参加者

【市街化調整区域の考え方】

- 三川内は市街化調整区域であり、桑木場あたりまでが市街化区域であると理解しているがどうか。また、調整区域が飛び地になっていることもあるのかお聞きしたい。
- 後日、三川内地区における開発行為の規制の今後について聞かせて欲しい。

【空き家対策について】

- 三川内山周辺は空き家が多い。空き家対策について考えてほしい

【耕作放棄地について】

- 佐世保市全体に言えることだが耕作放棄地が増えている。農業委員としても何とかしないと感じているが後継者不足や高齢化で、放棄地は再生どころか益々増える傾向にある。農業従事者も頑張るが、農業が活性化するような新しい農業の形を市としても考えていただければと思う

【不登校について】

- 不登校の子どもが以前より増えてきているように感じるが、何か対応策があるのかお聞きしたい。



令和5年度三川内地区 意見交換内容(要旨)

テーマ:三川内地区のまちづくり

市長

- 就任以前から、公共の足が弱ってきている状況を聞いており、運転士不足による便数の減少など利便性の低下を感じている。公共の足を守っていくことは行政の大きな役割のひとつであると認識している。バス事業者と連携し、利便性の確保について対策を講じたい。
- 一方で、地域にあった移動手段の確保も重要である。バスが通らない場所や高齢者の方が移動しにくい所はコミュニティバス、まめバス等を導入して足の確保に努めている。
- 今年9月から11月まで、日宇地区において乗合タクシーの実証実験を行った。その結果、利用者数が市で定めている維持基準を超えたため、本格運行に繋がるのではと期待している。地域の足の確保については行政、事業者、地域が一体となって推進できるよう今後ともご協力をお願いしたい。
- 佐世保市に元気がないというご意見、交流人口を増やすべきだというお話もいただいた。近年の長崎の開発状況を見れば、佐世保が見劣りしてしまう感は否めないのではないかと思うが、佐世保にしかできないまちづくりを目指していきたいと思っている。
- 佐世保市では、国際クルーズ観光船の誘致を図ってきた。乗客の皆さんが船を降りて周遊され、市内の商店街の売り上げがアップするなど少しずつ効果がみえてきている。三川内陶磁器工業協同組合からは、欧米の船が寄港した際に二百数十万売り上げたとの報告をいただき、嬉しく思ったところである。
- 事前にどのような乗客の方が来られるかが分かると買い物のニーズが分かる。寄港予定の船の情報を出来るだけ早く市内の事業者等に教えて、情報を的確に捉えていただき売上に繋げてもらえるよう、国際クルーズ船の経済効果を地域に繋げていきたいと考えている。

令和5年度三川内地区 意見交換内容(要旨)

テーマ:三川内地区のまちづくり

市長

- 三川内にはインターチェンジがあり、そのためどちらかと言うと通過点になっていると思う。三川内を通る人に足をとめてもらう仕掛けづくりが必要であると感じる。ぜひこれから地域の皆様も一緒にお考えいただきたい。
- 不登校は、深刻かつ重要で、見過ごせない問題だと感じている。本市では不登校特例校設置のための準備費を計上させていただいており、不登校に対する学校をつくるべく動き始めたところである。皆様のご意見、特に対象者の皆様の状況を把握しながら実現に向けて頑張りたい。



都市整備部長

- 現在、空家等対策計画の策定を進めている。空き家は人口減少に伴い増えていく傾向にあり、空き家の利活用に力点を置いて進めている。危険な老朽空き家は所有者を調査し、指導を行っている
- 現在新しい公園を作る予定はないが、今ある公園を使いやすくリニューアルしていくよう学校区単位でモデル地区を選定、ベースとなるものを作っているところである。
- 市街化区域と市街化調整区域の境界については、おっしゃるとおり桑木場までが市街化区域であり、三川内地区の他の大部分については市街化調整区域で間違いない。飛び地として、ハウステンボス周辺、テクノパークが市街化区域となっている。
- 開発行為の規制のお尋ねについては、関係される方にお集まりいただき、出前講座のような形で説明の場を設けさせていただきたい。